

就実小学校 Language Policy(案)

2021.4.1 策定

1 前書き Introduction

就実小学校 Language Policy とは、

就実小学校における「就実型 Immersion 教育」を推進していくための基本方針であり、児童・保護者・教員全体での共通理解事項です。

↓
※別紙「就実小学校における Immersion 教育」を参照

2 就実小学校の言語哲学 Language Philosophy

- (1) 就実小学校の言語哲学は、言語が学習の中心であると認識しています。すべての教員は、児童の言語発達に責任があります。
- (2) 就実小学校の Immersion 授業は、全て英語で展開されます。児童はその授業の中では恒常的に英語を使用することが求められます。
- (3) 就実小学校は、Immersion 教育により児童の英語力向上を目指すと同時に、日本語の言語能力を向上させ、児童の学力向上を目指します。また、日本の伝統的文化の理解及び深化についても重視します。
- (4) 就実小学校は、日本語が母国語でない児童や海外からの帰国子女を積極的に受け入れます。また、日本語と英語の両方の言語力向上のためのサポートを行います。

3 言語能力向上のために Supporting language development

◆使う言語と支援（指導） Language use and support

- (1) 全ての児童及び教員は、Immersion 授業では英語を使用します。
Immersion 授業に臨む際、言語スイッチを日本語から英語に変えます。
英語での表現が分からないときは、“How do you say ~ in English?”などと、教員や友達に尋ねます。
児童は、最初、英語を使うことにストレスを感じると思われます。それに打ち勝ち、チャレンジし続けることで、英語を自然と使えるようになります。
- (2) 安心安全な学習環境をつくり、児童が失敗を恐れることなく、果敢に挑戦し、お互いを認め合える雰囲気維持するよう努めます。
- (3) 言語学習が複数の分野にわたって横断的に行われるよう計画します。
教科学習の時間だけでなく、日常生活のあらゆる場面における言語学習に適した環境づくりを行います。さらに、教科横断的かつ各教科で学習したことを総合的にまとめたり表現したりする学習の時間を設定します。(SWCC,学習発表会,姉妹校交流等)
- (4) 教室及び校内掲示等において、日本語に加えて英語での表記をしたり、校内放送や学校行事において、日本語だけでなく英語での表現を取り入れたりするなど、校内の英語による言語環境を充実します。

◆教員の役割 Role of teachers

児童の言語発達をサポートするために、教員は次のことを行う必要があります。

- (1) 日本人教員は、日常的に英語を使おうと努力し、児童の良いモデルとなります。

日本語で行う授業においても、英語を関連付けて教えることを心がけます。

Immersion 授業では、Immersion 教員とともに英語を使おうとする雰囲気をつくります。

Immersion 教員との会話は英語を心掛け、自身の英語力向上に努めます。

- (2) Immersion 教員は、児童が興味を持って Immersion 授業に参加できるように、教材や授業形態等の工夫を行います。

日常的に、児童や保護者、日本人教員と英語でコミュニケーションを図ります。

自分の担当する学年団の児童の英語力向上に責任を持ち、保護者からの相談に乗ったり、個別に支援したりします。

英語の力を効果的に伸ばすことのできる教材や資料を、定期的に保護者に提供します。

- (3) 全ての教員は、児童の実態に応じて、言語スキル、語彙及び理解の向上のため、継続的で柔軟な指導を行います。

レベル別の書籍やオンライン教材、その他の補助教材を用いることにより、児童一人ひとりの能力や実態に寄り添ったきめ細かな指導を行います。

児童一人ひとりが英語及び日本語の双方の習得（習熟）を確実に成し遂げるために、適正な評価及び支援を継続的にを行います。

◆保護者の役割 Role of parents

児童の言語発達をサポートするために、保護者には次のことが求められます。

- (1) 就実小学校で学ぶことや Immersion 教育を受けることの意義について、繰り返し児童と確認し、英語学習やその他の学習に取り組む意欲を高めます。

Immersion 授業では、英語を使用することを約束します。

Immersion 教員に積極的に話しかけ、コミュニケーションをとるよう励まします。

- (2) 家で、児童が英語と日本語、両方の言語の音読に取り組むよう勧めます。

English dinner time 等、家で英語を使う時間を設定し、保護者も一緒に取り組みます。

毎月発行される「Immersion news letter」は、親子で一緒に読み、内容を確認します。

Immersion 教育の趣旨に則り、「Journal」等の宿題は、翻訳機能に頼り切りません。

- (3) 児童の学習のこと等で心配なことがあれば、学級担任や Immersion 教員に相談します。

来校した時は、Immersion 教員と英語であいさつをしたり簡単な会話を楽しんだりするなど、積極的にコミュニケーションをとります。

4 Language Policy の見直し Review of Language Policy

就実小学校 Language Policy は、毎年振り返りを行い、改善及び更新されていきます。

校長は、Language Policy について、しっかりと理解したうえで、それが言語学習の基盤となるよう努めるとともに、学校全体で遵守されているかどうかを確認します。

就実小学校における英語 Immersion 教育 (就実型 Immersion 教育)

1 英語 Immersion 教育とは

日本人が日本で学んで日英バイリンガル（この場合、状況に応じて日本語と英語の二つの言語を自由に使う能力のある人）になれる最も効果的な英語習得法のこと

2 Immersion の意味

英語では“immersion”、日本語の意味は「浸すこと」である。つまり、Immersion とは学習者を外国語に浸すことで、外国語によって学ぶ機会を多分に保証し、その言語を習得させる方法を指す。英語 Immersion 教育とは英語習得とその活用のサイクルの中で学び、言語の精度を高めていく教育であり、「浸すこと」ということは、単に外国語をどんどん与えて習得させるという意味ではない。たとえば、算数や体育といった教科をその外国語で学び活用することで、自然にその外国語を習得するという方法である。今、外国語習得の最も効果的な方法として、世界中でいろいろな言語の Immersion 教育が行われている。

3 英語 Immersion 教育をネイティブスピーカーが指導する理由

英語 Immersion の授業は Immersion の先生（英語のネイティブスピーカーの先生）が担当する。もちろん教科の学習指導には英語だけを使用する。児童が理解できない時は、必要に応じてボディランゲージ、ジェスチャー、視覚教材などの使用で理解を助ける。また、教科内容の理解を主眼に授業をするために、言語習得の発達段階でよく起こる文法的な誤りの矯正はなるべく控え、児童のモチベーションを維持、喚起し、積極的に発言することを奨励する。

このような環境で学習する Immersion 教育は英語習得に一定の成果を上げている。一般に Immersion 教育で育った児童は、ネイティブに近い発音を身につけ、早い時期にネイティブスピーカーと同等の聴解力も達成する。また、児童はいろいろな授業を英語で受けるため、他の日本語の授業を受けている児童に比べてコミュニケーション能力が高く、発想・思考が柔軟で、パターン認識や問題解決の能力も優れてくるという報告もある。例えば、算数を英語で学ぶ Math の場合、一般的には、「児童にとっての第一言語である日本語で学ぶよりも難しい」、「思考のプロセスが日本語→英語の2段階なので単元に要する時間が通常の算数よりもかかってしまう」と考えられる。もちろん、第一言語以外で学ぶことは児童にとって幾分か負担がかかると思われる。しかしながら、英語で尋ねられたものを日本語で思考し、英語で表出する段階を経ることで「脳を鍛える」、「思考パターンの幅が広がる」、「創造的・論理的な思考力が高まる」といった、まさにこれからの時代に必要とされる力を育てていくことができるのである。

4 就実小学校の Immersion 教育の目標

(1) 英語に熟達する

いろいろな授業を英語で行うことによって、ネイティブスピーカーに近い言語能力を身につけ、意思疎通を英語で自由に行えるコミュニケーション能力を養う。

【小学校卒業時 到達目標】

ネイティブの English Speaker の小学校2年生程度
TOEFL: A2~B1レベル

- (2) 第一言語（私たちの場合は日本語）の運用能力を保持し、それをさらに伸ばす
英語 Immersion 教育でいろいろな教科を学ぶことにより、第一言語の良さをより深く理解して言語能力を高めることになる。
- (3) 英語 Immersion 教育を受けている児童の全教科の学習能力を高める
英語 Immersion 教育は、単に英語の能力のみでなく、学業成績全般のレベルが英語 Immersion 教育を受けていない他の児童以上に達することを目標としている。
- (4) 社会文化能力の育成
国際化とは、他国を知り、同時に自国を知ることである。世界のボーダーレス化が進む今日、世界的視野を得て、他の言語、文化を尊重し共生することが必要とされている。児童自身が異なる言語や文化を尊重し、それらを理解し、同時に自己のアイデンティティーや母国文化に対する敬意の念を新たに見出し、理解を深めること、つまり国際人に育つことが目標とされる。

5 就実小学校での英語 Immersion 教育の現状（2021年）

就実小学校では、小学校1年生から英語 Immersion 教育を行う「早期英語 Immersion 教育」、また「部分 Immersion 教育」を行っている。「部分 Immersion 教育」とは、カリキュラム全体の教科を第一言語で授業を行う科目と英語で授業を行う科目とに分けて指導することである。

低学年では、一週当たり Math・P.E.・Art・English・就実タイムの英語多読やフォニックス、スペリング（月～木各15分）を英語で指導する。

中学年では、一週当たり Math・P.E.・Art・English・就実タイムの英語多読やスペリング（月～木各15分）を英語で指導している。低中学年で、これらの科目を Immersion 教科に選ぶ理由は、「教科の指導に使われる表現に指示する形が多く具体的であること」や「授業中の学習活動に実践的・参加型の活動が多く、自然な言語習得が起こる状況が作りやすいこと」などによるものである。

高学年になると、教科内容が専門的になるため、Math は英語 Immersion から日本人の教師による算数の授業に切り替えて指導を行う。一週当たり P.E.・Art・English・就実タイムでは英語の文法事項やスペリング、オンライン上での英語多読及び文章内容理解と考察を行っている。さらに ICT を活用した英語による学校生活の振り返りを記述や音声で行うことで、児童の表現力を高める取り組みを継続中である。さらに6年次の English 就実タイムでは習熟度に応じてクラスを編成し、少人数での指導を Immersion 教員と日本人教員の連携のもと行っている。

また、低学年で培ってきた英語の語学力やコミュニケーション能力を維持し、さらに柔軟な発想・思考を伸ばしていけるようなカリキュラムを工夫していくとともに、英語の授業を充実させるため、教員一丸となり Immersion 科目の授業研究と質の向上に恒常的に努めなければならない。さらに、日本語で展開される授業の中であっても必要に応じて英語を取り入れる工夫をするなど、英語に触れる機会を保證することが日本人教員間で必要とされる共通認識である。

さらに希望者には本校を会場とし、Cambridge English テストを実施している。2020年度は全学年で TOEFL の全員受検を実施した。これについては2021年度についても継続するものとする。